

【主な内容】

- 2… 鼎談=11・13「吹田9条の会」ついで
- 6… 青年探偵団の「寝屋川病」を探る
- 8… 公害道路をドーム化に
- 9… 沖縄取材ノート「十九の春」の物語
- 10… 2007年10月・イラク戦争は現在進行形
- 12… 操車場跡地は緑あふれる防災公園に
- 14… 戦火に散ったアスリート◎石丸進一
- 15… いわみせいじのヨコシマ日記⑨



画・高宮良子

JR吹田駅前

**JR吹田駅は、今の場所より200mほど大阪市寄りにありました。駅の位置をめぐる、町長派とビル会社派の確執があったそう。**

●表紙のことは

JR吹田駅前に広がるのは「旭通商店街」。かつては北摂を代表する商店街で、遠く茨木や高槻からバスで買い物にやって来る客などもいて、心斎橋や梅田並みの賑わいを誇っていた。さてこの「旭通商店街」、JR吹田駅北側にあるアサヒビール工場から名付けられたのだから、それとも「旭通商店街」があるので、ビール会社が「アサヒビール」と名付けたのか？ いったいどちらが先なのだろう…。本紙連載中のジャーナリスト新山洋氏が調べたところによれば、どうやら「痛み分け」のようである。

JR吹田駅は明治9年に開設、アサヒビール工場は明治22年の設立。一方「旭通商店街」は大正14年に開業しているので、これだけを見ると、「ビールが先で商店街が後」である。

しかし歴史は一筋縄ではいかない。実は大正期に、ビール工場と吹田市の間で一悶着があったのだ。

「大正12年、国鉄の吹田駅をビール会社の北東に約200メートル、町長が移転させた。『ビールのために吹田はある』と自負していた会社側がアタマにきたのはいうまでもない。さらば会社の言うことを聞く町議を出そうとビール派と町長派を結成。こうして以後の吹田の町政は、ビール派と町長派の激しい抗争を中心に展開する（ある町の100年）」

そう、JR吹田駅は今の場所から200メートルほど大阪市寄り、現在の西の庄町あたりにあったのだ。ビールを鉄道で輸送していた時代、吹田駅は「貨物駅」の様相を呈していたのかもしれない。しかし吹田の町の中心は高浜神社周辺、つまり現在の「旭通商店街」であった。町民の利便性を考えれば、町長は現在の位置に駅を移転したかったのだろうと思われる。町長とビール会社の紛争。しだいに「アサヒビールから名前をもらいましてん」と言えない風潮がもし出されていく…。そんなところが真相なのかもしれない。

現在の吹田駅。昨今の不況を反映し、シャッターを下ろした店が増えてしまった。駅と商店街がもう一度活性化するにはどうしたら良いのだろうか？